

主 文

原判決を破棄する。

被告人Aを懲役六月、被告人B、同Cを各懲役三月に処する。

但し被告人B、同Cに対しこの裁判が確定した日から二年間右刑の執行を猶予する。

領置にかかる現金（計二〇万円。当裁判所昭和三九年押第八三八号の一、ないし三）はこれを没収する。

被告人Aに対し公職選挙法第二五二条第二項の選挙権及び被選挙権を有しない期間を四年に短縮する。

原審及び当審における訴訟費用は、全部被告人三名の連帯負担とする。

理 由

本件各控訴の趣意は、千葉地方検察庁八日市場支部検察官検事三原健三作成名義の控訴趣意書及び被告人三名の弁護士伊藤博文、同伊藤敬寿共同作成名義の控訴趣意書記載のとおりであり、検察官の控訴趣意に対する答弁は、右両辩护人提出の答弁書記載のとおりであるから、これらをここに引用する。

検察官の控訴趣意第一点及び辩护人等の控訴趣意第二点について。
検察官の所論は、被告人B、同Cについて、原判決が『右被告人兩名はA（本件相被告人）と共謀の上、昭和三八年四月三〇日施行予定の千葉県香取郡a町町長選挙に際し、立候補の決意を有するDに対し候補者となろうとすることを止めさせる目的をもつて、同年三月二六日同郡a町b番地のcの前記D方において同人に立候補を辞退せられた旨申し向け右辞退の代償としての現金二〇万円を差し出し、以て金銭供与の申込をした』旨のAとの共同正犯としての公訴事実（罰条公職選挙法第二二三条第一項第一号）に対し、Aを右金銭供与申込罪の正犯と認定した上、右被告人兩名の行為はこれを幫助したに止まるものと認定したのは、判決に影響を及ぼすことの明らかな事実誤認を犯したものである、と云うにあり、また、辩护人の所論は、被告人三名についてDはもともと立候補の意思を有せず、被告人Aもこれを知悉していたが、ただDに対する儀礼上、同人が同県同郡d町長たる被告人B、同e町長たる被告人Cの勧告により立候補を辞退したかの如き形式を整えるため右被告人兩名をD方に差し向けたところDは一旦立候補しない旨を明言した後、金員交付方を要求しこれに応じなければ前言を取り消すと言いつつに至り、右被告人兩名はその旨を被告人Aに伝えたので、同被告人は予てDの経済的窮状に同情していたところからこれを救済するため贈与する趣旨をもつて同人の要求に応じ被告人B、同Cを介して本件の金二〇万円を提供したものであり、被告人B、同Cもこれと、同趣旨において右選挙とは関係なく右金員提供の仲介をしたに過ぎないから被告人三名の所為はいずれも罪とならないものである。しかるに原判決がこれをDが立候補を辞退することの代償として供与の申込をしたものと認めて被告人等に金員供与の申込または幫助の罪責を問うたのは、判決に影響を及ぼすことの明らかな事実誤認を犯したものであると云うに帰する。

〈要旨第一〉よつて各所論にかんがみ、被告人Aについては職権をも加えて審究考察するに、公職選挙法第二二三条第一項第一号第二二一条第一項第一号の金銭供与申込罪は、公職の候補者となろうとすることを止めさせる目的をもつて公職の候補者となろうとする者に対し金銭の贈与する旨の意思表示をし、又は、現実に金銭を提供して相手方においてこれを受領し得べき状態におくことによつて成立する犯罪であるから、自らかかる所為に出でた者をもつて犯罪の実行行為者即ち正犯と解すべきことは言うまでもないところ、刑法第六二条第一項にいわゆる従犯とは、主として犯罪の実行行為（刑罰法規各本条所定の構成要件に該当する行為）以外の行為に〈要旨第二〉より、正犯者の自ら行う犯罪の実行行為を助けその実行を容易ならしめることを言い、犯罪を主謀画策した者〈要旨第二〉において自らはその実行行為に出でず、これと意思を通じた他の者においてこれを担当実行した場合においては、たとえその者において、専ら右主謀者の指示に従い、その意図を実現するため従属的立場においてこれに加功したに過ぎない観を呈することがあつてもその所為は従犯たるに止まるものではなく、右主謀者と共同して犯罪を実行した者として刑法第六〇条所定の（共同）正犯の罪責あるを免かれず、公職選挙法第二二三条第一項第一号第二二一条第一項第一号の金銭供与申込罪についてもその理を異にするものではないと解するのが相当である。これを本件について観ると、原判決挙示の各証拠を綜合すれば、被告人Aは昭和二六年以降八年間に亘り千葉県香取郡a町議会議員として在職し、現在同町農業委員会委員の任に在るもの、被告人Bは昭和三三年一〇月から同郡d町長の職に在るもの、被告人Cは同年一二月から

されば原告判決が被告人Aの所為を金員供与申込罪の単独実行正犯、被告人B、同
Cの所為をこれに影を及ぼすものと認め、Aの認したるに帰し、原告判決は全部破棄
人の論旨も結局その理由あるに帰し、原告判決は全部破棄を免れない。

よつて刑事訴訟法第三九七条第三八二条に則り検察官及び弁護人のその余の控訴趣意につき判断を省略して原判決を破棄するとともに同法第四〇〇条但書に従い被告事件につき更に判決をする。

(罪となるべき事実)

被告人三名は昭和三八年四月三〇日施行予定の千葉県香取郡 a 町長選挙に際し立候補の意思を有していた E に無投票当選を得しめるため被告人 A の主謀画策に基き三名共謀の上右 E に対立して同町長の候補者となろうとしていた D に対し、候補者となることを止めさせる目的をもつて金銭を供与することを企て被告人 B、同 C において同年三月二六日同県同郡 a 町 b 番地の c D 方において同人に対し候補者となろうとすることを止めることの代償とする趣旨のもとに現金二〇万円（当裁判所昭和三九年押第八三八号の一乃至三）を贈与する旨の申込をしてこれを差し出し、もつて金員供与の申込をしたものである。

(証拠の標目)

- 1 原審第一回、第四回、第一〇回、第一三回、第一五回及び第一六回各公判調書中、被告人三名の各供述記載
- 2 被告人 A の検察官に対する供述調書三通
- 3 被告人 B の検察官に対する供述調書三通
- 4 被告人 C の検察官に対する供述調書
- 5 原審第二回及び第一〇回各公判調書中、証人 D の供述記載
- 6 原審第六回及び第一〇回各公判調書中、証人 F の供述記載
- 7 原審第四回公判調書中、証人 G、同 H の各供述記載
- 8 原審第五回公判調書中、証人 I、同 J の各供述記載
- 9 原審第八回公判調書中、証人 K の供述記載
- 10 原審第三回公判調書中、証人 L の供述記載
- 11 原審第七回公判調書中、証人 E の供述記載
- 12 M の検察官に対する供述調書
- 13 a 町選挙管理委員会委員長 N 作成名義の検察官に対する a 町長選挙結果についてと題する報告書
- 14 同委員会の検察官に対する電話聴取書
- 15 領置してある各現金（計二〇万円、当裁判所昭和三九年押第八三八号の一乃至三）
- 16 被告人三名の当公判廷における各供述
- 17 当審における証人 F、同 K、同 H、同 I、同 J、同 D 及び同 O の各尋問調書

(法令の適用)

被告人三名の右所為は各公職選挙法第二二三条第一項第一号、第二二一条第一項第一号、刑法第六〇条、罰金等臨時措置法第二条第一項に該当するので、被告人三名につきいずれも所定刑中懲役刑を選択し、その刑期範囲内において本件犯行の罪質、動機、態様、被告人等の犯行加功の程度、状況、被告人等の経歴、職業、社会的地位にかんがみ、且つ検察官及び弁護人等の量刑に関する各所論をも参酌の上、被告人 A を懲役六月、被告人 B、同 C を各懲役三月に処し、被告人 B、同 C に対しては、情状により刑法第二五条第一項第一号を適用してこの裁判が確定した日から二年間右刑の執行を猶予し、領置にかかる現金二〇万円（当裁判所昭和三九年押第八三八号の一乃至三）は、右犯行を組成した物で被告人三名以外の者に属しないから刑法第一九条第一項第一号第二項に則りこれを没収し、被告人 A に対しては、公職選挙法第二五二条第四項を適用して同条第二項の選挙権及び被選挙権を有しない期間を四年に短縮し、原審及び当審における訴訟費用は刑事訴訟法第一八一条第一項本文第一八二条により、被告人三名をしてこれを連帯負担させることとする。

よつて主文のとおり判決する。

(裁判長判事 小林健治 判事 遠藤吉彦 判事 吉川由己夫)